

めでたし。愛たき也。たきは希ふ詞也。よて遊仙窟に、可愛をよめり、めではほめいで、の略、たきはいたきにて、其事を強からしむる辭也ともいへり。

〔倭訓栞編二十四〕はしき。日本紀、萬葉集に多し、愛字よめり、愛妻などいへるは、うるはしき義、細しきの略にや、神代紀の我愛之妹も、はしきなにものみこと、讀べし。

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌。寄物陳思。早敷哉不相子故。徒是川瀨裳襪潤。

〔日本書紀二〕正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊。○中。生天津彦彦火瓊瓊杵尊。故皇祖高皇產靈尊特鍾憐愛。以崇美焉。

〔古事記中〕此天皇以沙本毘賣爲后之時、沙本毘賣命之兄沙本毘古王問其伊呂妹曰、孰愛夫與兄歟。答曰、愛兄。○下。

〔古事記中〕於是天皇問大山守命與大雀命。○仁。詔汝等者、孰愛兄子與弟子。○日本書紀十三。八年二月、幸于藤原密衣通郎。○耶原脫。姫之消息。○中。明旦、天皇見井傍櫻華而歌之曰、波那具波辭、佐區羅能梅涅、許等梅涅、波椰區波梅涅、和我梅豆留古羅。

〔萬葉集五〕令反惑情歌一首。并序。○序。父母乎、美禮婆多布斗斯妻子、美禮婆米具斯宇都久志、余能奈迦波、加久叙許等和理。○下。

〔難波江〕一愛憎の變と申すことあり候、我園の花は、野山の花よりまされるやうに思ひ候が、愛憎の變と申し候、是も人と我と、隔てあふ故にて候、誠に惑の甚しきことにて候、そのかみ彌子瑕は、衛の君に愛せらる、或とき彌子瑕が母、疾ありて、人ゆきて夜告げしかば、彌子瑕いつはりて、君の車に乗りて行きしを、衛君かへつて孝なりとて稱譽す、又一日、彌子瑕果を食ひしに、甘しとて、食ひかけし果を君に奉りしかば、衛君また忠なるよしを以て稱しぬ、彌子瑕寵を失ふとき、まづ此